

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物(終) 番外編…彼らのみた岩国

時代の節目となった幕末期には、長州藩や他藩から多くの人物が岩国を訪れています。彼らの目には、岩国や領主の吉川経幹はどのように映っていたのでしょうか。今回はこれまで取り上げた人々が、岩国についてどのように記しているかを紹介します。

吉田松陰は「経幹はとても真面目な人で、礼をもつて宗家（毛利家）に仕えて、礼をもつて士（志士）をもてなしている。とても尊ぶべきことである」と経幹のことを高く評価しています。幕末の思想家として知られる横井小楠も「当主は23歳（当時）、とても賢明な君主で学問を好み、国を治める方法に注意を払っている」とし、周布政之助も「善良な人である。守成は得意だが、撥乱には乏しい」としています。彼らの目には、経幹が真面目で学問に力を入れていた名君に映っていたようです。実際に、経幹は家譜の編さんや藩校養老館の設立などを行っていたことから、好学の人物であったこと

が分かっていきます。

一方で、第一次長州出兵に対する方針で対立していた奇兵隊の創設者である高杉晋作は「周旋を岩国に任せたことにより、岩国は志を得て、悪巧みが日に日に増長した」、「大反逆を計画していたのは言語道断の大胆で悪逆な行爲である。憎むべきものだ。恨むべきものだ」と、その行動を痛烈に非難しています。これに関連して、赤福武人は「岩国と諸隊はかねてから確執があり、再び内乱となるかもしれない」と心配しています。榎取素彦（小田村伊之助）も、文久2（1862）年に長州藩が攘夷を藩の方針とした際に「その当時、岩国には保守派が多くて、なかなか毛利敬親公（長州藩主）の命令を進めることが困難だった」と岩国が保守的だったと振り返っています。

これらは、あくまで時代の一点での評価や感想ではありますが、こうして比較してみるとその違いは大変興味深いものがあります。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



▶『吉川経幹肖像』
(吉川史料館蔵)

※1 創業し、成立した事業を守ること
※2 乱れた世を少しずつ治めること
※3 吉川家について史料などをまとめたもの

岩国市 人口・世帯

人口 140,149 人【前月比 - 51人】 男性 66,407 人 女性 73,742 人

世帯 66,484 世帯【前月比 + 16世帯】 ※外国人人口を含む（平成27年11月1日現在）

交通事故発生件数 10月分事故件数 41件(425件) 死者数 0人(3人) 傷者数 49人(489人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337